# 保健体育（保健）

## 1　研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

自ら考え表現する力を育む保健の授業実践～大気汚染と健康を題材にして～

### (2) 研究のねらい

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説保健体育編　体育編』には、科目保健の思考力、判断力、表現力等の目標は「健康についての自他や社会の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。」(文部科学省　2018)と示されている。

一方で、「保健教育推進委員会報告書」(令和４年３月　日本学校保健会)は、高校２年生で保健の授業において「考えたり工夫したりできた」と回答した生徒は66.5%にとどまっていると報告している。

研究実践校の生徒に目を向けると、自身の意見を発言したり、発表したりすることが得意でない生徒が多いように感じられる。

そこで、本研究では、生徒が自ら健康課題を“自分事”として捉えられるよう、生徒の興味・関心を喚起する身近な課題を題材とした。また、課題学習を行い、またそれを発表することを通して自ら考え表現する力が育成されることを目指した。この学習過程を通じて、生徒が自ら健康課題を“自分たち事”として捉え、適切な意思決定・行動選択や表現する力を育むことをねらいとする。

## 2　実践事例

### (1) 単元指導計画

**ア　科目名**：保健【対象：入学年次の次の年次】

**イ　単元名**：環境と健康【内容のまとまり：健康を支える環境づくり】

**ウ　単元の目標**：

＜知識及び技能＞

環境の汚染と健康、環境と健康に関わる対策、環境衛生に関わる活動について、理解することができるようにする。

＜思考力、判断力、表現力等＞

環境と健康に関わる情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明することができるようにする。

＜学びに向かう力、人間性等＞

環境の汚染と健康、環境と健康に関わる対策、環境衛生に関わる活動について、自他や社会の健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。

**エ　単元の評価規準**

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ①人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。<br>②健康への影響や被害を防止するためには、汚染物質の排出をできるだけ抑制したり、排出された汚染物質を適切に処理したりすることなどが必要であること、そのために環境基本法などの法律等が制定されており、環境基準の設定、排出物の規制、監視体制の整備などの総合的・計画的対策が講じられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。<br>③上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物を適切に処理する等の環境衛生活動は、自然環境や学校・地域などの社会生活における環境、及び人々の健康を守るために行われていること、その現状、問題点、対策などを総合的に把握し改善していかなければならないことについて、安全で良質な水の確保や廃棄物の処理と関連付けて理解したことを言ったり書いたりしている。 | ①人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用し、自作したスライド資料で説明している。 | ①環境の汚染と健康、環境と健康に関わる対策、環境衛生に関わる活動について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとしている。 |

### オ　単元の指導と評価の計画

| | 時 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 学習の流れ | 0 | オリエンテーション | 前時の振り返り・本時の目標 | | | |
| | 10<br>20<br>30<br>40 | 講義<br>大気汚染の原因と健康影響<br><br>個人ワーク<br>大気汚染に関するキーワードを調べ、スライドにまとめる。 | グループ学習<br>1　大気汚染に関してまとめた内容をスライドを使って発表する。<br>2　環境に関するテーマについて話し合い、発表する。 | 講義<br>1　水質汚濁、土壌汚染と健康<br>2　環境の防止とその対策<br>3　産業廃棄物の処理と健康<br>4　ごみの処理の現状、安全で良質な水の確保 | 個人ワーク<br>今の生活のなかで、水質汚濁、土壌汚染に繋がる問題点、解決策を考える。<br>グループ学習<br>循環型社会を目指す実生活の取組について考える。 | ワーク<br>単元の振り返り |
| | 50 | 本時の振り返り・次時の確認 | | | | |
| 評価の機会 | 知 | ① | | ② | ③ | |
| | 技 | | | | | |
| | 思 | | ① | | | |
| | 態 | | | | | ① |

| 評価方法 | |
|---|---|
| 知識・技能 | ワークシート、単元テスト |
| 思考・判断・表現 | ワークシート、スライド |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 観察、ワークシート |

### カ　授業実践例　（２時間目／５時間）

(ｱ) 本時の目標

＜知識及び技能＞

環境の汚染と健康について、理解することができるようにする。

＜思考力、判断力、表現力等＞

環境の汚染と健康について、課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ワークシートに記述したりして、筋道を立てて説明できるようにする。

＜学びに向かう力、人間性等＞

環境の汚染と健康について、課題の解決に向けての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。

(ｲ) 本時の評価

思考・判断・表現①：人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用し、自作したスライド資料で説明している。

(ｳ) 本時の展開

| | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価の観点<br>(評価方法) |
|---|---|---|---|
| 導入<br><br>５分 | １　本時の学習内容の確認 | ・学習環境を整える。<br>・出席確認をする。<br>・本時のねらいを明確にする。<br>・事前アンケートを共有する。 | |
| | 本時のねらい<br>大気汚染の原因や大気にかかわる環境問題について調べ、身近な例を用いて他者に伝え、また、舞岡高校が大気汚染への対策としてできる取組を考え発表しよう。 | | |
| 展開①<br><br>20分 | ２　大気汚染による健康影響や、地球規模の問題について、自身で作成したスライドを活用してグループ内で発表する。<br>（１人３分程度）<br>・グループは４人１組を基本とする。<br>・事前に割り振ったキーワードについて各自で調べ、改善策(個人・社会)まで考え発表をする。<br>【キーワード】<br>光化学オキシダント<br>地球温暖化<br>酸性雨<br>オゾン層の破壊 | ・聞き手は、メモをとり、評価を行うよう指示をする。<br>【評価のポイント】<br>・説明の分かりやすさ<br>・時間配分<br>・スライドの工夫<br>・具体的な事例を挙げ、改善策を挙げている<br>・欠席の生徒がいる場合は、他のグループの発表を聞きに行くように促す。<br><br>・発表後は、グループ内で発表者が示した改善策の実現の可能性について協議するように指示をする。 | 思考・判断・表現①:<br>人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用し、自作したスライド資料で説明している。 |
| 展開②<br><br>20分 | ３　「大気汚染を防ぐために今の自分たちにできることは何だろうか」というテーマについて、グループで話し合い、全体に発表をする。<br><br>・『舞岡高校ゼロカーボアクション』の具体案を出し合ってまとめる。 | ・環境の汚染における健康課題を“自分たち事”として捉え、話し合うように指示をする。<br>・司会者、記録者、発表者を１名ずつ決めるように指示をする。<br>・話合いが進んでいないグループへは、具体的な話になるよう大気汚染の原因を振り返るように支援をする。<br>・他グループの発表時は、自分のグループでは出なかった意見をメモさせる。<br>(話し合い10分)<br>(発表10分) | |
| まとめ<br>５分 | ４　本時の振り返り<br><br>５　次時の内容の確認 | ・　ワークシートを参考に、本時の内容の振り返りを促す。 | |

研究実施校：神奈川県立舞岡高等学校(全日制)
実　施　日：令和５年10月10日(火)
授業担当者：教諭　麻生　真史

### (2) 「指導と評価の一体化」の視点を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導と評価のポイント

#### ア　指導と評価のポイント

本研究では、評価については、「十分満足できる」状況（A）と判断される生徒、「おおむね満足できる」状況（B）と判断される生徒、「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の実現状況を判断する目安を検討・作成し、それを踏まえて各観点の評価を行った。

実現状況を判断する目安の例：２時間目

思考・判断・表現①：人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用し、自作したスライド資料で説明している。

| | |
|---|---|
| 十分満足（A） | 人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用し、自作したスライド資料で、より身近な例を用いて説明している。 |
| おおむね満足（B） | 人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用し、自作したスライド資料で説明している。 |
| 努力を要する（C） | 人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用し、自作したスライド資料で説明できない。 |

#### イ　主体的・対話的で深い学びのポイント

単元のはじめのオリエンテーションにおいて、単元の目標や学習の進め方について共通理解を図り、生徒に単元の見通しをもたせた。

単元の１時間目と３時間目では教師が主導となり、知識を確実に身に付けるような学習活動を展開し、２時間目と４時間目では身に付けた知識や既習の知識を基に、生徒それぞれが興味・関心をもった環境問題について理解を深め、発表する学習活動を行った。

特に２時間目では、生徒一人ひとりが発表用スライドを作成し、グループ内で丁寧に説明した（図１）。その中で、生徒同士で質問し合ったり、分からないことはグループ内でＩＣＴ端末を活用して調べたりするなどの姿が見られた。また発表や対話を通して、理解を深め、大気汚染という環境問題についての新たな課題を見付け解決しようとする姿があり、環境問題を“自分事”“自分たち事”としている様子が伺えた。

２時間目の後半では、「大気汚染を防ぐために今の自分たちにできることは何だろうか」というテーマで、『舞岡高校ゼロカーボアクション』をグループごとに検討し、より身近な対策を考えることで課題解決に向けた活動を理解して探究し深い学びとなるように工夫した（図２）。また、２時間目のワークシートには表１のような生徒の振り返りがあった。

図１　発表の様子

図２　課題に取り組む様子

表１　生徒の振り返り（生徒のワークシートより一部抜粋。誤字、脱字を除き、原文のまま記載）

| | |
|---|---|
| 生徒Ａ | 自分たちの実生活がこれらの原因になっていることに気が付いた。 |
| 生徒Ｂ | 身近な小さなことでもできることがあると気が付いた。 |
| 生徒Ｃ | 自分の何気ない行動が、大気を汚している原因となっているので、身近なこと（ゴミの分別とか）から始めていきたい。 |

生徒の振り返りの記述より、事前アンケートにおいて他人事と考えていた環境問題を“自分たち事”として捉えたことがわかった。加えて、単元の前後で生徒に「主体的に保健の学習に取り組んでいるか」と調査したところ、表２のような結果となった。

表２　「主体的に学習に取り組んでいるか」の事前・事後の調査結果

| | 取り組んでいる | どちらかというと取り組んでいる | どちらでもない | どちらかというと取り組んでいない | 取り組んでいない |
|---|---|---|---|---|---|
| 事前 | 10% | 45% | 43% | ２% | ０% |
| 事後 | 15% | 58% | 26% | １% | ０% |

表２より、事前では「取り組んでいる」・「どちらかというと取り組んでいる」群は55%であったが、事後では73%と18ポイント増加している。

これらのことから、教材(題材)の工夫等を通じて、生徒が主体的・対話的で深い学びを実現したと考えられる。

ウ　まとめ

本研究は、生徒の考えを表現する力を育み環境問題を“自分たち事”として捉えることができるような単元づくりを目指した保健の授業実践である。本研究テーマでもある「自ら考え表現する力を育成する」ことについて、授業後に「本単元を通して、①どのような力が身についたと実感していますか、②調べ学習から発表までを行った感想」を調査したところ、表３のような振り返りがあった。

表３　「本単元を通して、①どのような力が身についたと実感していますか、②調べ学習から発表までを行った感想」の調査結果(生徒の回答より一部抜粋。誤字、脱字を除き、原文のまま記載)

| | |
|---|---|
| 生徒Ｄ | ①　スライドを作ってみて、文章をどうやって短くまとめたらわかりやすく班のみんなに伝わるかを考える力がついたと思いました。<br>②　調べ学習をして、教科書にのっていない深い内容を自分で調べて理解することができたし、発表を聞いて、内容を理解することができたので良かったなと思いました。 |
| 生徒Ｅ | ①　まとめる力。スライドを工夫して見やすくするように考える力。言葉で伝える力。<br>②　人に物事を伝えるのは難しいなと思いました。発表することは緊張したけどスライド作るのは楽しかったです。時間配分が難しかったです。 |
| 生徒Ｆ | ①　たくさんの資料を見て要点をまとめる力・それをさらに資料にして、分かりやすいものを作る力<br>②　自分の話したいことが多く、時間内に収めるのがギリギリになってしまったから、もっと簡潔にまとめる力を身につけたい。 |
| 生徒Ｇ | ①　自分で調べたことの中から大事だと思う所を抜き取り、そこから聞く側がわかりやすいように字の大きさや配置などで、自分なりにわかりやすくまとめる力をつけることができた。<br>②　やっぱり自分で調べてそれをまとめるという流れで勉強したことは頭に入りやすく記憶に残りやすいなと思いました。 |

生徒の振り返りの記述より、「自ら考え表現する力」が育成されたことがわかり、「自ら考え表現する力」を育成に適した学習過程、教材であったと考える。一方で、表現する力を育むためには、保健の授業だけでなく、他教科の実践等も参考にしながら学校全体として組織的に取り組んでいくことが重要だと再認識した。

今後は、教科・科目にとどまらず、教科を横断し「自ら考え表現する力」を育めるよう授業改善や授業研究も必要であると感じた。

引用文献

文部科学省 2018 『高等学校学習指導要領(平成30年告示) 解説保健体育編体育編』　p.12」
https://www.mext.go.jp/content/1407073_07_1_2.pdf (令和６年１月18年取得)